

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4372701047		
法人名	株式会社 白水 ディエイチシー		
事業所名	グループホーム つばめ		
所在地	熊本県阿蘇郡南阿蘇村吉田2043		
自己評価作成日	平成21年12月3日	評価結果市町村受理日	平成22年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp">http://www.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本県熊本市南熊本3丁目13番12-205		
訪問調査日	平成21年12月15日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

職員全員が常勤であることから、支援を行う中でも日々、その人らしさを追求し、同じ方向性を持って支援している。  
医療併設施設ではないが認知症に理解を示して下さる医師が近隣におられ、気軽に往診していただいている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホーム玄関から望む雄大な阿蘇の姿に心あられ、入居者は生まれ育ったこの土地でその人らしい“笑顔のある生活”を支援する職員と一緒にゆとりのある時間を過ごしている。今年度これまでホームから日常的に自宅への外出支援をサポートしてきた男性入居者が、自宅での自立した生活にまで復帰し退所となったことはホーム職員の個々に対する支援の賜物である。昨年に続き地域に向むいてホームならではの認知症啓発活動への積極的な取組みは大いに評価できる。単独ながらホームに理解ある近隣医師による往診や細やかなアドバイスにより入居者の健康面を支えている。2ユニットから1ユニットに移行され、現在未使用となっている設備の整った空間が、今後行政や地域の医療機関などの協力により活用され、管理者はじめ職員の活躍の場となっていく事が期待される。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目につくところに理念を掲げて、日々の支援の中で理念を振り返りながら、行うようにしている。	“ひとつ屋根の下笑顔のある生活”を基本理念とし、その人らしい地域での生活支援など五つの具現化した項目を玄関や居室に掲示し、職員は日々のケアを立ち返り共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に近隣との交流は難しい。	ホーム周辺に民家はほとんど見られず、日常的な関わりを持つことが難しい立地条件であるが近隣のホーム関係者から野菜の差し入れや関連会社職員との散歩中のやり取りなどを通じ入居者と外部との関係が途切れないよう支援している。中学校の体験学習の受け入れや、管理者自らが地域に出向き、認知症サポーター養成講座で参加者にわかりやすく講話することでホームへの啓発と地域の一員としてできることに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉祭りでの認知症サポーター養成講座が開催されるので包括支援センターを通し民生委員さんに参加呼びかけ。湯の里荘において、入居者を対象とした認知症サポーター養成講座開催。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	警察署の方に勉強会の依頼(道路交通法改正に伴う更新時の認知症検査等について)	定例化された運営推進会議には、毎回各方面からの出席があり、ホームの現状報告や、他事業所の困難事例を通して意見を聞き、同業者間で情報を共有する体制作りをする提案を行政に行った。会議録は玄関に設置し家族や来訪者の共有に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	空き部屋状況報告等をし、入居受入可能な状態である事を随時報告。	行政からの運営推進会議への出席や運営に関する報告や助言を得るためホーム側からも足を運び良好な関係を築いている。年度途中から2ユニットを1ユニットに移行したことで随時入居状況を報告しアドバイスを受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関してマニュアルを使用し勉強会開催。身体拘束は行われていないが、再度意識付けのため身体拘束ゼロ宣言の掲示。	玄関の施錠も含め身体拘束の研修会の実施や「身体拘束ゼロ宣言」を玄関・職員室に掲示している。言葉による拘束についても事例をあげ意識づけを行っている。	今後も言葉による拘束については、入居者の自主性や尊厳を重んじ、職員がお互いの気付きを述べあい入居者目線のケアに繋がっていくことを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体的な事ばかりでなく、言葉によるものなど、日々支援していることが虐待となっていないか、あれと感じたことはすぐにその場で伝え、本人の振り返りの場として、防止するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングにおいて、内部勉強会を開き、資料をもとに再確認し、学ぶ機会を設けた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にお話をお伺いする際、書類関係の説明をしその後、持ち帰っていただいた後、改めて口頭で説明・不明な事を確認しながら理解をはかっている。また必ず管理者2名での対応をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートにて家族の意向の確認(家族会・ホームたより・運営推進会議議事録・おこづかい・インフルエンザ対策等) 2号館から1号館への利用者さんの移動に際して、事前確認	入居者や家族の意向を確認する機会として面談の実施や、運営推進会議・ホーム便りなど意見や要望を把握するアンケートを実施し、運営に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや申し送りにて、意見交換の場をもうけ、運営に生かす様に努力している。	年一回の職員面談やミーティングの中で職員だけの話し合いの時間を設けている。ケアに関し不自由と感じることにに対しては、可能な限り早急に対応し、乾燥機などの家電の買い替えや楽しい食事支援に繋がる正月用食器の購入を行った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勉強会の案内掲示・情報の発信等を随時情報提供している。給与に関しては、難しい面もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会の情報の発信はしている。今年度は、業務としての各種勉強会への参加をしている。報告会を必ずしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会主催の勉強会・交流会の参加。他事業所とのスタッフの相互訪問予定。		

## Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御家族からの相談後、必ず御本人にお会いして話をするなかで、御本人の要望や困っている事をお伺いする様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に対しても相談から入居までに十分な時間をとり話をお聞きし、初期の段階で良い方向性を持って信頼関係が築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームがどのような施設であるか、また当ホームがどのような理念を持ち支援しているか、どのような機能をもっているか説明を行い、ご家族がご希望されるサービスが当ホームに無い場合は、他の施設等を紹介している。また当ホームが御本人御家族の思いにかなっているか、十分考えていただく時間をもうけている。パンフレットに見学自由と記載し、入居前にホーム見学をしてもらってる		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と同じ時間を共有する事で、身近な存在として話を十分聞くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	1回/月の手紙や面会時も随時状況報告は行っている。本人を支えているのは家族であることを踏まえ、各家族との個人面談を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた知人やキーパソン以外の家族に対して、次回の面会に繋がる支援の在り方として、面会簿を工夫し、年賀状を出した。	馴染みの美容室利用や家族の協力を得て、墓参・通院の帰りに自宅での食事を楽しんだり、今年度はプライバシーにも配慮した個人面会簿を作成し、面会者の了解を得て年賀状や手紙による関係継続の取り組みを行った。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	10月より合同となり、ひとりひとりを配慮し、リビングや食堂のテーブル・イスの配置を変更した。合同になった事で、利用者さん同士がうまく関係を築ける様している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居により自宅に戻られた後も、御家族やケアマネに連絡をとり、その後の生活状況を把握している。		

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で入居者の言われている一言一言を大切に、申し送りやミーティングにおいて伝え、その時その時の思いを把握しながら、日々の支援に生かしている。(合同になった事でスタッフ全員がその人の思いの振り返りをしている)	日々の会話の中や面会の家族からの情報により意向の把握に努めている。外部評価の項目をテーマに勉強会を実施し“その人らしさ”を初回テーマとし一人ひとりの思いについて分かち合った。	外部評価に対する真摯な取り組みが、今後のその人らしいケアの確立に繋がっていくようこのような勉強会の継続に期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の暮らしを大切にしながら、今回合同になった事で、それぞれの入居後の生活状況を一覧表にしてミーティングを通じスタッフ全員が同じ事を把握した。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	いつもと違う行動・言動・表情を重視し把握するように努めている。(生活シートをもとに)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1回/月のミーティングの中で、入居者一人ひとりについて、状況を確認し、各担当からの意見も聞き検討見直しをしてケアプランにつなげている。	月一回のミーティングや申し送りの中で職員の意見や気づきを確認し、かかりつけ医の意見も取り入れプランを作成している。又、面会や面談の際に家族からのケアに対する要望を尋ね入居者本位のプランに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	直接的支援が少ない方は、今までの記録では変化がみづらかったので、記録用紙を直接的支援多い方と間接的支援多い方でわけた記録とした。特記事項がすぐに見やすく、情報を共有しやすい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自宅退居に向けて、ディサービス等との関係がうまく作れる様な支援や試験的外泊において、食事支援や見守る等の支援を行う。(家族不在)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理美容については、ご本人が希望している慣れ親しんだところを利用し、子供達との交流を通じ、元気に楽しみを持って生活できるよう福祉体験の受け入れや慰問を積極的に受け入れるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則受診関係は御家族であったが、御家族の希望もとり入れ、ホームでの受診をするようにした。現状や受診の状況がわかりづらかった部分がわかるようになった。かかりつけ医は各家族が決定し、必要時は専門医の受診をすすめている。訪問歯科による往診もある。	これまでのかかりつけ医の受診を、家族の要望へも配慮し現在はホームで対応している。又どんな些細なことでも報告を行い家族の安心に繋げている。近くにある協力医との良好な関係が入居者の健康をともに支えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、早期にいつもと違う状況を気づくことができるようになっており、管理者が看護職である為、いつでも状況報告相談できる。必要時は、早期に医療機関の受診への対応ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、早期に情報提供書を提供し、入院生活を送られた方に対して、積極的に本人の様子を見に行き、入院の状況を把握し、看護師との情報交換において、本人にとって最適な環境が一番との事もあり、骨折入院でありながら術後3週間での早期退院を実現している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は、重度化・終末期を迎えられている方はいないが、対象者が出た場合は、早期に御家族・主治医との連携をはかり、意向にそった支援をしていく。	入居時にホームの指針を説明し同意を得ている。元気であるから考えられる終末期もあるのでは・・・？との管理者の思いから、現在月に一家庭のペースで日々のケアも含め意向に沿った支援に繋がる面談を実施している。	会議の中などで重度化や終末期に向けたホームの方針については職員にも伝えてあるが、今後職員のメンタルにも配慮した研修会の実施を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは作成してある。定期的訓練はできていないが、異変にすぐに気づき、最低限の意識レベルチェックやバイタルのチェックをしつつ管理者報告等の対応は出来ている。事例に関しては必ず対応の振り返りをして、次回に行かせる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2回／年の消防立会いのもと火災訓練実施・防災無線常備。近隣の工場の方の協力体制もある。村との協議にて防火水槽設置決定	年二回消防署立ち会いの昼・夜間想定の実践を実施している。近隣の会社の協力体制も確立している。又、運営者の働きかけにより行政との協議にて防火水槽設置が決定しホームの安心にも繋がった。	たばこ・火の元・鍵等のチェック体制の確立により万全な安全対策に繋がることを期待する。

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の入居者にあつた言葉かけをしている。スタッフの言葉ひとつで表情や口調に少しでも変化をみとめた場合すぐにその場で振り返り考察している。	入居時に呼称について家族や本人に確認を行っている。管理者は人生の先輩である入居者への尊厳について機会あるごとに話し、今後も全職員が入居者の目線に立ったケアの確立に努めたいとしている。	言葉使いや動きなど職員の行動が入居者に与える影響を接遇も含め今一度検討し、今後も入居者の穏やかな日常生活の継続に期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの表情や行動から、本人がどうしたいのか見極める支援をしている。合同になった事で、より固定観念にとらわれない見方や声かけの仕方ができている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日をどのように過ごしたいか決められているわけではなく、起床や就寝、食事の時間に関してもその方のペースで行える様に支援している。個々のもっている力を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後は化粧水等を使用したり、なじみの美容室を利用されたりしている。外出時には、衣類や髪型等にも配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園で収穫した野菜での調理・季節にあつた食材の選択で季節感も楽しんでもらい、好みのものをお誕生日等に出して喜んでもらっている。屋外での食事も取り入れている。	菜園で収穫した野菜や差し入れ食材を使用し、入居者も米とぎやテーブル拭きなどできることを一緒に行っている。高齢者の好みのメニューを得意とする調理職員の採用は入居者の食への楽しみを広めている。料理の味やその日の出来事など楽しい会話のある食事風景であつた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事管理が重視されている糖尿病の方がおり、管理栄養士からの指導をうけ、つばめのできる範囲の食事の提供をしている。肉アレルギーの方には、他の方と違うもので対応し栄養のバランスがとれるように工夫している。水分チェック表を使用し把握している。このみに応じた飲み物の提供をしてる		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方の状況に応じた、場所・時間で随時対応してる。必要時は、訪問歯科による指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、排泄のサインを見逃さないで、声かけし本人の意思を尊重しながらトイレ誘導をしている。夜間も体動等に気をつけながら、各人のペースにあったトイレ誘導をしている。随時、排泄に関しての検討を重ねている。	自立排泄や体調・季節など個々のその時に応じた排泄パターンをつかみ、活動の区切りや仕草・表情により声かけ誘導を行っている。職員は申し送りや会議により情報の共有を徹底し自立に向けた支援に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取において、牛乳・ポカリ・ヨーグルト等をすすめ、自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間にとらわれる事なく、個々の状況に応じて入浴できている。	入居者の希望に応じた入浴支援を実施している。同性介助希望者への対応や入浴拒否の場合も、表情やタイミングを見ての誘導により支援し、清潔保持に努めている。職員の持ち寄った菖蒲やゆず湯など楽しい季節風呂支援も取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間をきめることなく、各自がすきな時に休まれる。お天気の良い日は、布団干しをし気持ちよく休める様にしている。日中の休息も自由にしてもらってる		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当者の内服薬は、できるだけ把握するために定期薬の準備を担当に任せている。すべての内服薬ではないが向精神薬や臨時処方されている薬については、その都度、説明し状況の変化を把握するようにしている。処方箋のファイルでの管理。医療ノートの活用。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	まだやれるまだできるとの理念のもと、男性利用者2名に菜園作りや七夕の笹をきってもらった。今年度初めて梅干を漬けてもらうなど、できるだけひとりひとりの力を行かせる様にしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御本人が希望される時はいつでも外出できる。(散歩・理美容)。行事として季節事に外出をおこなっており、福祉体験の中学生にもつたってもらっている。ご本人の思いをご家族に伝え、お墓参りなどの外出もできている。	近隣の散歩や菜園の手入れ・買い物など入居者の体調や天候に配慮しながら、希望の外出支援を行っている。花見やぶどう狩りなど季節を楽しむ外出も支援している。また、家族の協力を得、墓参りや親類の集まりにも外出の機会が支援されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族が希望している一部の方は、お金を預かって自由に使う事ができるようにしてる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望された場合、随時電話をしてもらっている。手紙のやりとりもすすめている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温の調節は、利用者の方々に確認しながらまた利用者の方々の状況を見ながら調整。スタッフの会話や声が不快感を与えている場合もあり、随時配慮している。	玄関やリビングなど季節の花や装飾が施され、入居者も心とむ空間である。一ユニットへの移行により職員の不安や戸惑いから、入居者の混乱を招いたこともあり、管理者はハード面ばかりでなくソフト面からも居心地の良さに繋がる日常のケアに心がけたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に食堂とリビングを分けて、それぞれの方が思い思いの場所で過ごせるようにしてる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の状況からベットの位置の工夫・使い慣れたベットを好まれた方は持参してもらっている。ゆっくりと好きなテレビをみてもらえる様に、居室にテレビを設置してもらっている。	入居時に持ち込みの品(思い出の品・愛用品の例)が記入されたパンフレットを使用し、家族の協力を繋げている。個々の一番落ち着くベットの位置を安全面からも検討したり、換気や小まめな掃除を行い居心地の良い居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	合同になり居室を決める際、できるだけ以前の居室の位置と近い場所への移動とし、それまで持っていた力が低下しないように配慮した。リビングにおいてもソファ等位置を変えているが、それぞれの方の生活導線を考慮した。		